

▶ 猛暑との戦い ◀

— 技能検定実施 —

若年層の有資格者育成が今後の課題

愛知県板金工業組合は、7月24日岡崎市の岡崎地域職業訓練センターにおいて建築板金内外装の1・2級と、曲げ板金2級の技能検定の実技試験を実施した。25日に作品審査も同所にて行われた。

検定日の朝は役員と受験者は会場に9時に集合し、係員と岡崎支部の皆さんによる会場の準備が行われた。9時30分から受け付けと道具の搬入が始まり落ちついたところで愛板平野理事長と関係者の挨拶と試験についての注意事項や説明があった。今年の受験者は建築板金内外装の1級が20名と2級が31名、曲げ板金が2級1名の全員で52名となった。

会場の受験者で以前のように中年者は姿を消し規定の経験年数に近い若者たちが全体をおさめていた、これは資格者が一巡し、残りは新規の人だけの時代がきたということかも

また、課題を作るのに標準時間をオーバーする人が多くなりこうした技術が日頃から養われていないということだろう。

長い間この仕事に携わってきた私の目には何かの変化しつつある事が感じられた。

今年も一宮地方の受験者は6月初めから練習に入り2週間前からは毎夜12時すぎまで汗びっしょりになって練習をしていたが先輩たちもやってきたことだし良い経験だといえども大変なことだと思っ

た。課題を作る練習のとき、早くマスターしてもらうためにどのよう

に指導したら良いかこれが現代若者の気質で時間を掛けて指導するの

が良いか考えると野理理事長の挨拶のなかで現場における有資格者の常駐制度が普及してきて資格の重要性が見直され組合員のより

多くが有資格者となつてほしいと希望をのべられたように全員、合格者となるためには何か良策は無いものだろうか。試験途中で退場者もいたがこれは課題をかるく考え練習不足が原因のようだ。

作品審査は25日同会場で朝10時より20名の係員が4班に別れてポイントを分担し採点を行った。

作品の外見は全体に平均して半田付けの点については電気鋸にかわってからレベルアップはしたがコテ先の調整が難しいせいを目をすえるほどの物も見られなかった。

曲げ板金においては受験者が1人であったため検定、採点は当日で終了した。採点、事務処理がすんだあと席を変えて軽い食事と反省会が岡崎駅前で開かれた。その席で全責任者の石原鉄司氏はこの猛暑のなか頑張った受験者を見て全員に合格してほしいが本人のため審査は厳しく行いそのぶんだけ指導者が課題を制作し研究して教えてほしいと、2日間のご苦労とお礼の挨拶があった。



愛知県
板金工業組合
名古屋昭和区
北山町3-8-6
電話 732-1226
発行 広報委員会

*労働保険は、従業員の方々が不慮の業務上災害・通勤災害を受けたとき、又は失業した場合及び雇用の継続が困難となる事由が生じた場合に給付を受けることができる一方、事業主のみなさんは各種助成金の対象となる制度です。

*労働保険の諸手続きについては、労働保険事務組合や社会保険労務士を利用することが

……労働保険は、労災保険と雇用保険を総称したもので、従業員を一人以上雇用する事業主の皆さんは加入しなければなりません。……

労働保険 働くみんなの サポーター



できます。

*まだ、加入手続きをとられていない事業主の皆さんは今すぐ加入手続きをして下さい。

相談は
名古屋東公共職業安定所適用課
電話 052-774-1115
内線 22・23

愛知県板金工業組合事務局
電話 052-732-1122

■塩ビ雨樋も37才■

■エスロン37才

■ナショナル35才

樋、といったら今では塩ビ製が当たり前になっているのではない

か、銅板製とかアルミとかステンレスがあるが八割以上が塩ビ製であると思う。今から三十年前までは、ほとんどが金属製（カラー鉄板を含む）であり、その二・三年前まではトタン（亜鉛鉄板）ばかりであった、それも既製品が出たのは昭和三十年代半ばになってからであり、それまで加工していた。雨が降れば軒樋や壁樋それに、鯨鯨などを加工していた。軒樋は耳巻きをしなければならぬのでずいぶん手間がかかった。それも

昭和33年ナショナル雨といの誕生

初期のナショナル雨といのカタログ

三尺もの（φ914）で加工して半田付けして二間物（3.6m）にして作り置きしておくのである。

私も修行時代は軒樋の耳巻きをずいぶんやり指先を拍子木でたたきずいぶん血豆を作ったが耳巻き機が開発されたり長尺物が発売されるようになり手加工をするようなことが無くなった。

伊勢湾台風（1959 S34・9・26）後でもそんな樋が多く取り付けられていた。そんな時期（1957昭和32年）に塩ビ雨樋も発売されたセキスイのエスロン雨といで1年遅れの33年5月にナ

ショナル雨といが誕生した。

7月12日松下電工の栗東工場を見学した。これは、ナショナル雨

樋発売35周年記念キャンペーン感謝の集いでリフレッシュした栗東工場の見学会であった。新しい工場は近代化された世界一のオート

メ工場で国内のシェア70%を誇り年商1兆円産業となっている。生産ラインでは最初に芯になるスチールをロール成形してそれに塩ビ被膜を作り次々と製品となって出てくる。35年といえは長いようでも、ついこの間の

私が最初に塩ビ雨樋を発売当時の「二重差込式ナショナル雨とい」

を施工したのは、発売翌年からであるがまだ民間工事でもほんの少しい大きな物件では1962年（昭和37年）7月小牧市北外山で愛知県住宅供給公社の分譲住宅に取り付け

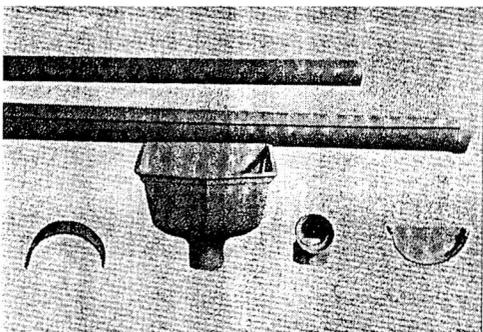
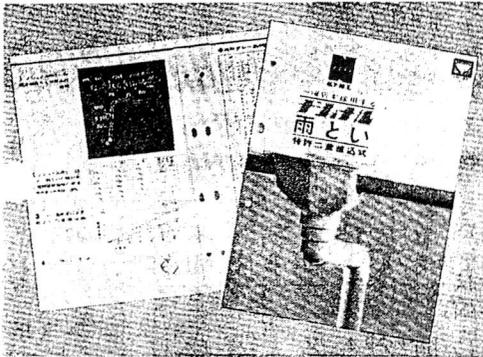
たのが最初である。加工しなくてよい、現場で半田付けも必要ないので能率はすくなくあり、14棟（軒320m位）を3日間で取り付ける

と当時の日報に記載している。発売当時の塩ビ雨樋は今から思えば安っぽいといであった。が、錆びない腐らないそれに加工しなくてよい、という点で、それから

は何処へいっても塩ビ雨樋を勧めるようになった。近年では施工性もずいぶんよくなったし吊り式が主流になり外観は樋受けが見えなくなるなどですっきりしてきた。特に最近では雨樋に見えない樋が発売されて、見積もりなどの図面にも記されてくること



「塩ビかほ川する ナショナル雨とい 特許二重差込式」



「二重差込式ナショナル雨とい」

た。反面、雨樋の施工は内樋ぐらいいしかなかなり取付屋となってしまっているようだ。県板では保証事業を現在では屋根のみに限っているが将来は外壁及雨樋にも事業を拡大するよう検討に入っている。今後には単に取り

付けるだけ、ということだけでなく施工方法もメーカーとも連携しながら勉強していく必要があるのではないかと左記に発売当時の1メーカーのカタログを掲載する。

驚見

中部板金工業組合協議会

青年部 総代会開催

中板協青年部の総代会は、平成6年7月10日（日）名古屋中小企業福祉会館に於いて午前10時より開会しました。

総代会は愛知・岐阜・三重・静岡・石川・福井の各県の理事28名中21名の出席があり成り立ちました。但し、富山県板には現在青年部が在りません。

織部孝祐氏の司会進行で始まった総代会は、中板協青年部部長の桑原康成氏（三重）の挨拶の後、来賓紹介があり、中板協副会長である平野愛知副理事長が来賓を代表して挨拶されました。岐阜県板青年部副部長の安田氏

を議長に選出して議案審議に入り第1号議案（事業報告、決算報告）より順次解決承認されていきました。今回は中板協青年部OBとの懇談会の場がもたれました。各県よりOBの方が16名出席され自己紹介の後、現役との話し合いに入り中板協青年部としての事業および部活動の進め方等いろいろの意見が出されました。総代会終了後大同銅板（株）様及び積水科学工業（株）様の講演会が行われ、その後懇親会があり和やかな雰囲気の内にお開きとなりました。

豊田 松井

健康

腎臓病



腎臓は血液中の老廃物を除去するほか、色々な働きがあり、塩分を多くすると尿の塩分の濃度が増えますが、これも腎臓が体内の水分や塩分を調節しているからです。赤血球の生成にも関与し、腎臓の機能が低下すると骨髓で赤血球が作られず、貧血状態になります。又、ビタミンDはそのままでは体内で利用できないので、腎臓によって利用される形に作り替えられています。

腎臓病の主なものは、①腎炎

腎炎は腎臓の糸球体に炎症が起こる病気で、一年以内で治るものを「急性」、一年以上治らない場合を「慢性」といいます。慢性の場合には急性のものが治らずに長引いたり、急性にはかからず、知らずに慢性化しているケースがあります。

②ネフローゼ症候群

単独の病気でなく、蛋白尿、低血症、高コ

レステロール血症等、糸球体の異常で起こる様々な症状が現れる病気の総称。その多くは慢性腎炎から起こります。

③腎盂腎炎

細菌感染により、腎臓に炎症が起きる病気で、多くは細菌が尿道から入り、膀胱、尿管を経て腎臓に感染します。

④糖尿病性腎症

糖尿病の合併症です。血糖値の高い状態が続くと、糸球体の毛細血管が害され、腎臓の濾過機能が低下します。糖尿病の患者は常に腎臓の検査を行っておく必要があります。

この様に腎臓病と関係があるのです。尿検査だけでは総てを調べる事はできません。病気を確定する為にはさまざまな精密検査が必要で、精密検査はまず「血液検査」があります。これはワレアチニンや尿素窒素という老廃物が、血液に

含まれているかを調べる検査です。ただ、これは腎機能がかなり低下しないと反応が出ません。さらに詳しく調べるには「クリアランス検査」という、尿と血液の検査で、腎臓の濾過機能を調べます。

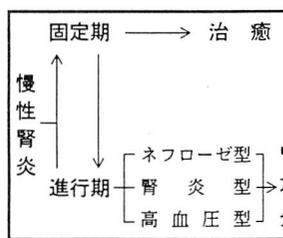
また、背中から針を入れて、腎臓の組織の一部を取り出し、正常な組織を保っているかどうかを調べる「腎生検」もあります。この様な検査によって、腎臓病かどうか、またどんな腎臓病なのか、またどの様な腎臓病のうちの初期のうちにはあまり自覚症状がなく、気付いた時には病状も進行している事が多いものです。蛋白が下りるのは、腎臓病だけではありませんが、「腎臓病かもしれない」というヒントを与える大切なチェックポイントです。定期的な尿検査を行い、早期発見に心がけてください。

尿検査は市販されている「検尿テープ」を使い自分でできますが、色の変化が微妙なため、医師に判定法をよく教えて貰ってからにしてください。

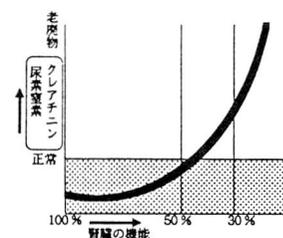
腎臓病では次のよう

な症状が現れるので、早期発見のためサインを見落とさない事です。①手足や顔のむくみ ②尿の異常 ③血圧の上昇

この様な徴候があったら検査が必要です。腎臓病が進行し、高度の腎不全になると一生、人工透析治療が必要になります。その上腎臓病は、自覚症状がないままに進行するため、早期治療を心がけることが何よりも大切です。腎臓病のうちでも、患者が最も多い「慢性腎炎」で病状の経過を見てみると、比較的



症状の安定した「固定期」と、病状が進む「進行期」があり、安定した固定期は健康な人と同じように活動でき、多くはそのまま治療につなげられます。進行期では治療を怠ると腎不全になる可能性があります。腎臓の機能が30%以下になると、人工透析が必要になります。最終的には人工透析しか治療の方法はありません。腎臓病と分かたら、ともかく腎不全まで進行させない事が大切です。その為には初期の正しい治療が必要で、腎臓病の治療は食事療法と適切な安静療法及び薬物療法が中心で、要は患者の心がけ次第といえます。



でも進行することがあり、特に注意が必要です。かつては、食塩制限や蛋白質制限などの食事療法が主体でしたが、今は患者の病状に合った療法が行われています。

食塩制限の程度	症 状
厳 重 な 制 限 1日 1~2g	●顔(主にまぶた)や足などを中心に全身にむくみが現れる ●血圧が160mmHgを超えている
中 等 度 の 制 限 1日 3~4g	●むくみがある ●血圧が150mmHgを超えている
軽 度 の 制 限 1日 6~8g	●血圧は正常で尿の量が多い

①食塩制限

食事療法の中で最も大切なポイントですが、ただ制限するのではなく、むくみや高血圧があるかなどの症状に合わせたような制限を行います。

図3からわかるように、軽度の人は厳しい食塩制限を行う必要はなく、むしろ味がまずくなってしまうので、食事の摂取量が減るので避けるべきです。

さてここで食塩1g

②水分制限

腎臓病が進行すると、多くの場合は尿が少なく、むくみができるので水分を控えますが、腎臓機能が低下する途中で多尿になることがあります。この時には脱水を防ぐために水分を多量にとる必要があります。その時の量に合わせた水分制限を行います。

食事療法の内、水分制限のところでは、「多尿」について多少補足します。

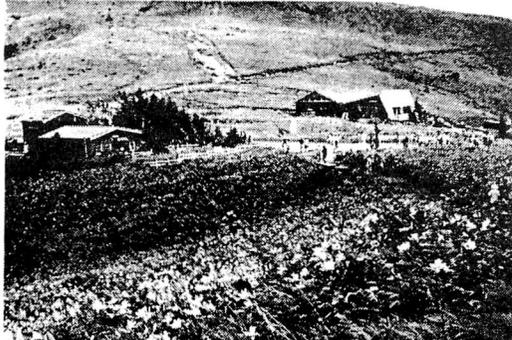
図2で、腎臓機能の低下と血中老廃物の増加の関係を示しましたが、腎臓機能が30%~50%のあたりで、尿が増えることがあります(多尿期)。普通、尿は一日一五〇〇cc前後ですが、多尿期には薄い尿が、一日三〇〇〇ccも排泄されます。この時期には喉が渇くので、渇きにに応じて水を飲みます。(次号へ続く)

●編集後記

「霧ヶ峰の黄々」

真夏の太陽が照り付ける七月下旬、此の頃になると居ても立ってもいられなくなる。もかりし頃は一週間で

も十日でも山に入り、穂高連峰や槍ヶ岳、剣岳、立山など長野県や富山県の高い山はほとんど登ったものだが、人間を長くやって居ると無理も利かなくなり最近では年間を通して手頃の山へ登ったり、花を求めて高原歩きを楽しんでいる。ではなぜ此の季節にう



霧ヶ峰の山であり、日本三大奇祭の一つ御柱祭りで有名である。甲州街道と中山道つまり現在の国道二十号線と上田市へ通じる一四二号線の分岐点にある下社秋宮は、鳥居をくぐった正面に樹齢七〇〇年の御神木「根入りの杉」や日本一大き

い「狛犬」正面に吊り下げた「しめ縄」社殿の四隅に立つ「御柱」などお参りの人が絶えない。また此々の手洗いの水が水でなく龍頭から温泉の湯が流れ出ている所が温泉町にある神社らしい。この辺りへ来たときは必ず立ち寄り「家内安全」「商売繁盛」「交通安全」を祈願する。下諏訪のお勧めの味覚は秋宮の近くにある老舗の「塩羊羹」あっさりした甘さであと引くうまさ。一四二号線から旧国道へ入る。樹木に覆れたつづら折りの山道を上り旧和田トンネルを抜け「和田料金所」より霧ヶ峰有料道路ビーナスラインに入る。この道路は「白樺湖」から「美ヶ原台上」まで六区間に別れている。和田料金所から約十分位で最初の目的地「八島湿原」に着く。車山と鷲が峰の間に広がる霧ヶ峰は高原が連なる雄大な大草原。霧ヶ峰に点在する湿原の中で一番大きいものが八島湿原である。東西南北約1kmの高層湿原でその形成には一万年の歳月を費やしたといわれる。湿原は木道が整備さ

れ一時間位で一周できる。木道の左右にはヒメシヤクナゲ、シシウド、ベニバナシモツケ草など高山植物と二五〇種余の湿原植物が湿原を彩る。また湿原の中には浮島が浮かぶ八島が池や鎌が池などの池があり、変化に富んだ美しい自然が満喫出来る。六月から八月にかけて花のシーズンになると大勢の人が訪れ木道は数珠つなぎになる。写真を撮りあつたり花にカメラを向けたり、霧ヶ峰の植物図鑑を広げ花の名前を確認して楽しみながら自然に溶け込んでいく。しかし残念な事に「立入禁止」の中に入り記念写真などを撮る無神経な人間が多くなるので六区間に別れている。自分勝手な人間には自然に親しむ資格もないし、自然保護に力を入れていく場所には来てほしくない。花の写真を撮りながら木道を回るうち偶然にも「カメラショー」で「花の撮り方講座」を担当されている東京町田市在住の桜井先生に出会った。友人二人を誘い三人で撮影に来られたとの事で話に花

が咲いた。プロの撮り方を見せて貰いながら、大自然の中での花の表現の仕方機材、使用材料など技術指導をして頂いた。先生はじめ二人の友人も自然を愛する気さくな人達で思いがけない嬉しい出会いであった。「いい作品作りに頑張らましよう」と再会を約して湿原を後に車山に向かう。霧ヶ峰・車山に近づくとつれて、道路の両側には今日一番の目的の花「ニッコウキスゲ」が見え始める。良く咲いている。人と車でごちゃごちゃの霧ヶ峰バス停を通過して車山の駐車場から高原に出て全体を望む。遠くに先程の八島湿原から霧ヶ峰、車山と三六〇度の大パノラマ。青い空、白い雲、大空に舞うグライダー、そして爽やかな大草原に彩りを引き立たせる主役は黄色く咲く「ニッコウキスゲ」見渡すかぎり「全山まっ黄色」この雄大なスケールの自然の美しさは見飽きる事を忘れさせる。目を近くに向ければ黄色のニッコウキスゲの中に紫色の野アザミやオニユリ、ホタルブクロ、マツムギなどが

ワキ役を努めている。素晴らしい景観に浸って弁当を開く家族づれや高原を歩くハイカーのグループ、皆健康的でいい顔している。花を楽しんだ後は、近くの山小屋「コロポックルヒュッテ」で牛乳を飲み休憩し農家のオッサンの店で焼きとうもろこしをかじる。柔らかくて甘みが強くうまい。ここ迄はいつものお決まりコース。快適に高原ドライブウェイ・ビーナスラインを走り車山高原駐車場に入る。此の周辺には洒落たホテルやペンションが点在しヨーロッパの高原に似た気分になる。また東山高原はスカイスポーツのメッカでもあり、カラフルなハンググライダーやパラグライダーが大空を飛び交っている。スキーリフトで標高一九二五mの山頂に登る。遠くに南北アルプスから富士山まで、すぐ下には白樺湖が手に取るように見え、霧ヶ峰の展望とは一味違った「全山まっ黄色」の大パノラマの眺望が素晴らしい。雄大な展望と爽やかな高原の雰囲気と美しい花に満足した

後は、白樺湖の近くの蕎麦屋で山菜そばを食べて、大門街道を下諏訪に下る。此れもいつもの事であるが上諏訪に下ると諏訪湖畔の諏訪湖間欠泉センターの近くにある、レンガ造りの洋風建築「片倉館」に直行。昭和二年、当地で製糸業を営む大手の片倉組が従業員の厚生施設として建てたもので、その後共同浴場に地域住民や観光客に開放され根強い人気がある。千人風呂と呼ばれる大理石の大浴場は湯船の底に玉砂利が敷かれ、深さが胸まである。広い浴槽の中を歩くと玉砂利が足の裏を刺激してすごくいい気分。ステンドグラスがはめ込まれたロマン。溢れる温泉を機会があったら体験される事をお勧めしたい。入浴料三百円。温泉に入ってすっきりした後は諏訪IC近くにある駅弁人気一位の「峠の釜めし」直営ドライブインで夕食用に「峠の釜めし」を買って午後四時帰路につく。七月二十七日(水)晴 二八六号編集会議 委員 五名 出席 午後五時終了 (S)